

明治史料館通信

1986. 7. 25 (季刊 年4回発行) Vol.2 No.2 通巻第6号

シリーズ

沼津兵学校とその人材

沼津兵学校と数学

本格的洋算教育の嚆矢

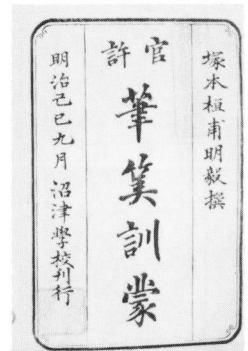
沼津兵学校の資養生の学科には、数

学として點竄(てんざん)(代数)・幾何などが定められ、日本古来の和算とは違う西洋の数学が教えられた。洋算の一部は江戸時代に既に中国経由で伝えられたりしていたが、本格的には幕末の洋学発展の過程で取り入れられるようになり、特に長崎海軍伝習所において初めて系統的に教授されたといえる。沼津兵学校では、塚本明毅・赤松則良・伴鉄太郎ら長崎海軍伝習所で洋算を身に付けた教授たちが才能を發揮したのである。軍事技術の基礎として数学は兵学校の必須科目だったわけであり、資養生から本業生に進級すると、微分・積分その他さらに高等数学が教授されることになっていった。沼津兵学校は、我が国において本格的に洋算教育を実施した先駆的な学校といえる。

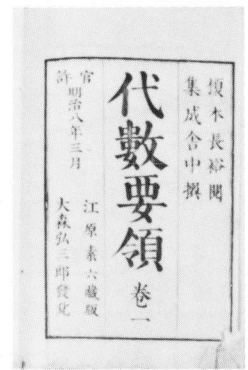
数学教科書史上の傑作『筆算訓蒙』

明治二年九月に沼津兵学校が刊行した塚本明毅撰『筆算訓蒙』は、日本における最初の本格的な洋算教科書とい

われて



沼津兵学校刊「筆算訓蒙」



集成舎刊「代数要領」

数学史研究家の小倉金之助氏によれば、「この書は、一面においては、たんなる西洋からの直訳的でないところの、日本的なる風格を維持している。『筆算訓蒙』は数学教育上の傑作であった。人もし明治維新を記念すべき名教科書を求めるなら、私はまず第一にこの書を推したいと思う。」とまで絶讃されている。この本は、沼津兵学校附属小学校の教科書として使用されたほか、全国的にも広く普及した。

数学者・数学教育者の輩出

沼津兵学校の数学教育の成果は、「沼津ノ生徒トイヘハ華世間ハアシテ数学ニ巧ナル者トナスニ至レリ」(『日本教育史資料』)とまでの評判をとるほどであった。その教授や生徒からは、明治の数学界をリードする優れた数学者・数学教師が多数輩出した。明治十年に設立された日本最初の数学の学会「東京数学会社」の最初のメンバー百十四名のうち、十七名は、旧沼津兵学校関

係者であった。塚本明毅・永峰秀樹・中川将行・荒川重平・真野肇・山本淑儀・榎本長裕・海津三雄・堀江当三・伊藤直温・伴鉄太郎・赤松則良・神保長致・古谷弥太郎・宮川保全・矢田堀鴻・岡敬孝らである。特に中川と荒川の二人の海軍教授は、和算の封建制を強く批判し、数学の産業技術面への実用性を強調し、用語・記号の統一や数学書の左起横書きを最初に実践したことで、数学史上高く評価されている。

応用諸分野への貢献

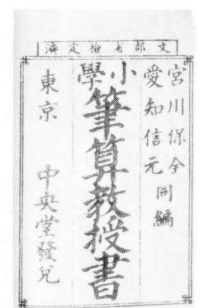
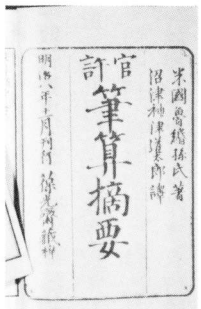
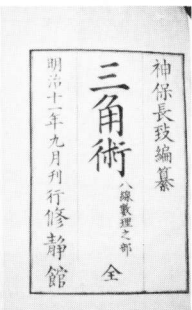
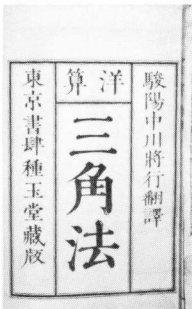
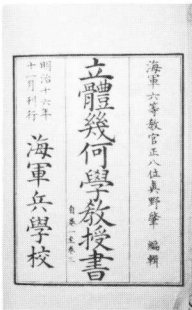
基礎学科としての数学に優れていた沼津兵学校からは、測量・工学などの応用分野で活躍する人材も多く出た。

地元への影響

沼津兵学校が廃止された後も、地元に残された附属小学校の後身集成舎では、兵学校以来の優れた洋算教育が行われ、『代数要領』のような教科書を出版したほどであり、同時期の地方小学校には稀有の存在であった。

沼津兵学校関係者の主な数学書

編著訳者	書名	発刊年
塚本明 毅撰	筆算訓蒙	明治2~
" 校正	代数学	明治5
赤松則良 良関	代数学用法(中村六三郎訳)	明治5
神保長致 訓点	代数学術	明治8
" 訳	算学講本	明治9~13
" 編纂	三角術	明治11
榎本長裕 著	幾何全書	明治7
" 関	代数要領・代数要領答式	明治8~10
" 編	陸軍大学校講本算学教程	明治18
山田昌邦 訳	幾何学	明治5
" 訳	幾何学实用	明治6
" 訳	代数学教授書	明治7
" 訳	小学幾何画法(赤松則良関)	明治11
" 訳	小学暗算書	明治11
" 訳	英和数学辞書	明治11
" 訳	小学対数表	明治17
" 編	小学幾何初步(赤松則良関)	明治18
" 編	新撰幾何画法	明治20
永峰秀樹 著	筆算教授書	明治10
中川将行 訳	三角法	明治8
" 著	平面三角術教科書	明治16
" 著	孤三角術教科書	明治17
" 訳	ロック初等平面三角術	明治22
中川・荒川重平 訳	幾何問題	明治7
" 訳	幾何問題 解式	明治12
中川・吉田泰正 訳	三角法	明治9
中川・真野肇 編	筆算全書	明治8
真野・岡敬孝 編	筆算訓蒙解	明治8
真野肇 編輯	立体幾何学教授書	明治16
" 訳	ウキルソン平面幾何学	明治21
" 訳	ウキルソン立体幾何学	明治22
真野・遠藤政之助 編	理論応用中等算術	明治25
" 編	理論応用中等幾何学	明治28~29
真野・富田耀之助 編	代数学教科書	明治31
" 編	平面幾何法	明治32
" 編	新編代数学	明治43
" 編	新編平面三角法教科書	大正2
大平俊章・愛知信元 編	筆算教授次第	明治7
宮川保全・愛知編	小学筆算教授書	明治21
塚原靖・武藤重之 編	算海方針	明治5
神津道太郎 訳	筆算摘要	明治8
" 訳	続筆算摘要(宮川校・榎本関)	明治10
" 編	小学用算術書	明治17
宮川保全・神津編	尋常小学珠算提要	明治19
倉林五郎・岡田正	数学提要	明治?
宮川保全 訳	幾何新論(榎本長裕校)	明治9~10
" 訳	代数新論(")	明治10
" 訳	三角新論(")	明治11
大森俊次 編纂	新編算術教科書	明治26
大森・谷田部梅吉 訳	訓蒙代数学	明治20
古谷弥太郎 編	明治新撰算法新書	明治11
" 編	算盤早伝授	明治11



(以上5点東書文庫所蔵)

名主・庄屋から戸長へ

ぬまづ近代史点描 ④

戸籍法による
最初の戸長

明治四年（一八七二）四月に布

告され、翌年から施行された戸籍法によって、静岡県（伊豆・遠江を含まない）の場合は八十一区に分けられ、それぞれの区には戸長・副戸長が置かれることになった。

最初、この八十一区と戸長は、戸籍編成事務上の単なる区画と役職にすぎなかったが、五年九月以降は行政区画・行政担当者としての性格を備えるようになった。そのため、江戸時代以来の村々と名主（庄屋）・組頭といった村役人は廃止されることになった。

その直後には、さらに制度の改変によって大区・小区制が実施されることになったが、ここでは戸籍法による最初の八十一区とその戸長について、現在の沼津市域の場合を紹介してみたい。沼津市域には旧幕臣移住者が多かったため、なんと戸長は全員が士族であった。

（なお伊豆国に属した内浦・西浦地区については除外した。）

■第一区

戸長 松尾儀三郎（士族）

副戸長 費川直一郎（長沢村）

原大平（大平村）

鈴木新平（徳倉村）

区 域 大平・日守・徳倉・柿田

湯川・堂庭・玉川・久米

田・畑中・的場・戸田・

長沢・八幡・伏見・新宿

■第二区

戸長 吉田泰門（士族）

副戸長 植村七十郎（獅子浜村）

古屋与一郎（口野村）

区 域 志下・馬込・獅子浜・江

ノ浦・多比・口野

■第三区

戸長 星野虚舟（士族）

副戸長 高木幹枝（士族）

後藤四郎（下香貫）

区 域 上香貫・下香貫・我入道

善太夫新田

■第四区

省略（現在の長泉町・裾野市・

御殿場市・小山町方面）

■第十三区

戸長 今西相一（士族）

副戸長 井口幹一郎（上石田村）

江藤俊平（東沢田村）

区 域 日吉・高田・木瀬川・下

石田・中石田・上石田・

上小林・下小林・岡一色

岡宮・東熊堂・西熊堂・

東沢田・中沢田・西沢田

沢田新田

■第十四区

戸長 坂本復之（士族）

副戸長 中村唯一郎（士族）

和田惣次郎（士族）

奈佐鋌造（士族）

区 域 沼津城内

■第十五区

戸長 酒井泉吾（士族）

副戸長 坂三郎（上土町）

足助喜平（浅間町）

区 域 沼津宿本町・同上土町

同三枚橋町

■第十六区

戸長 大塩慎一（士族）

副戸長 増山源七郎（松長村）

土屋儀三郎（大諏訪村）

区 域 今沢・松長・大諏訪・小

諏訪・西間門・東間門

■第十七区

戸長 小林昇平（士族）

副戸長 川口五郎作（鳥谷村）

深沢直作（東井出村）

区 域 東椎路・西椎路・東原

鳥谷・柳沢・青野・根古

屋・東井出・西井出・東

平沼・西平沼・石川・船

津・西船津・境

■第十八区

戸長 近藤宗一郎（士族）

副戸長 植松与門七（原宿）

渡辺太郎作（原宿）

区 域 大塚町・原宿・一本松新

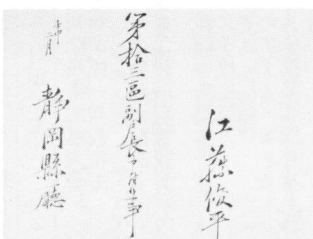
田・助兵衛新田・植田新

田

■第十九区

省略（現在の富士市以西、志太

郡まで）



第十三区副戸長辞令

東沢田村の豪農江藤俊平のもの
（江藤昭二氏所蔵）

お知らせ欄

◎いよいよ開幕!

企画展「沼津兵学校」

8月1日がいよいよ企画展「沼津兵学校」その教育と人材」が当館3階展示室で開幕します。

沼津兵学校は明治元年、江戸から静岡に移住した徳川家によって静岡藩の藩校として創立されました。旧幕府の教育的遺産を受け継ぎ、西洋の学問の新しい取り入れ口としてその高い教育水準を誇るとともに、教授陣や生徒などから多くの優秀な人材を輩出しました。沼津兵学校はこれまでの常設展示の中でも乏しい資料で紹介してきましたが、開館以来、兵学校関係者の子孫を訪ね歩くなど地道な努力を積み重ねた結果、多くの新



映画「沼津兵学校」から

しい資料や情報を発掘することができました。今回の展示ではこうした研究成果を展示紹介します。

また、展示会を記念して刊行する図録「沼津兵学校」は、兵学校関係者の写真などを満載した集大成となることでしょう。

◎関連事業

●劇映画「沼津兵学校」上映会

とき：8月3日(日)午後2時から
ところ：沼津市民文化センター
内容：昭和14年東宝作品 今井正監督 黒川弥太郎、花井蘭子ほか出演

●歴史講座「沼津兵学校の人材」

とき：8月10日から毎日曜日
午後2時～4時連続5回
ところ：明治史料館講座室
日程：講師・演題：別表のとおり
受講申込：当館まで電話にて

●図録「沼津兵学校」の刊行

規格：B5判 78ページ
頒価：未定

◎展示室閉鎖について

企画展の展示替えのため、次の期間展示室を閉鎖いたします。なお、月末日を除き図書室、資料閲覧室は平常どおりご利用できます。

歴史講座「沼津兵学校の人材」日程

日時・講師

演題

8月10日(日) 午後2時～4時 四方一弥氏(国士館大学教授)	近代科学技術の導入者 沼津兵学校一等教授方	赤松則良
8月17日(日) 午後2時～4時 片桐芳雄氏(愛知教育大学助教授)	イソップ物語の翻訳者 沼津兵学校一等教授方	渡部 温
8月24日(日) 午後2時～4時 金原宏行氏(浜松市美術館学芸員)	日本洋画の先駆者 沼津兵学校絵図方	川上 冬崖
8月31日(日) 午後2時～4時 和田 守氏(静岡大学教授)	日本のアダム・スミス 沼津兵学校第6期資業生	田口 卯吉
9月7日(日) 午後2時～4時 樋口雄彦(明治史料館学芸員)	正義と人道の政治家 沼津兵学校第4期資業生	島田 三郎

準備期間7月25日(金)～7月31日(休)

◎古文書解読入門講座の受講生を募集します。

今年度も古文書解読入門講座の受講生を募集します。くずし字の解読にはじめて取り組む入門者が対象です。経験のある方は自主学習会である「明治史料館古文書学会」への入会をおすすめします。
とき：11月23・30日、12月14・21日
1月11・18日各日曜日14～16時
ところ：明治史料館講座室
講師：市立高校 友野博先生
受講申込：当館まで電話にて

◎ご寄贈ありがとうございます

(敬称は略させていただきます)
記念レリーフ・浮島出張所長(平沼) 写真ほか・鈴木憲二(上)

沼津市明治史料館通信 第6号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410 沼津市西熊堂372-1
☎〇五五九(2)三三三五